

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		4/11-18	4/18-25	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.086	0.100
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.049	0.044
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	0.038
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.067	0.071
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	0.028
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.024	0.025
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.057	0.032
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.081	0.050

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		4/11-18	4/18-25	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.110	0.053
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.017	0.019

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第84回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(平成30年4月11日～平成30年4月25日)

平成30年4月11日～平成30年4月25日の間の南相馬市における大気浮遊じんにおける放射性セシウム137は平均0.065mBq/m<sup>3</sup>と低い値でした。放射性セシウム137は、原子炉での核分裂反応に伴って発生する人工放射性核種でベータ線を放出しながら崩壊します。一方、大気中には、土中の天然ウラン-238から発生するラドン娘核種が0.1～数10Bq/m<sup>3</sup>の濃度で浮遊し、セシウム137と同じようにベータ線を放出しています注1。人間は、大気浮遊じんに含まれている放射性セシウム137の数万倍濃度の放射能環境で生存しているのです。

注1 自然大気中の浮遊放射能  
<http://www.houshasen.tsuruga.fukui.jp/pages/noudo.html>